

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2009年9月

発行：能代市教育委員会生涯学習課

家庭教育はすべての教育の出発点

「子どもを育てる」とは、どういうことなのでしょう。

子どもの「生きる力」を育むために、大人はどのような関わりをしたらいいのでしょうか。

この通信では、家庭教育に関するちょっといい話や事業の紹介、講座に参加いただいた皆さんの声などをお伝えしていきます。

人格形成における基本は「家庭」にあります。「子どもを育てる」ということ、親としての心構えや家庭の大切さについて、考えていきたいと思っています。

「子どもの豊かな感性を見逃してはいけない」

能代市社会教育指導員 高畑 勉

小学1年生の隆夫はとても活発な子だったが、周りの子どもたちとはかなり違っていた。

授業参観日のこと。新任の先生が、笠地蔵の話を取り上げた。「おじいさんは、吹雪の日にお地蔵さんに笠をかぶせてあげました。するとお地蔵さんは、おじいさんになんと言ったのでしょうか？」

子どもたちはみんな「はい、はい」と言って元気に手を挙げた。先生が隆夫を指名すると、彼は「もっときつくしばってください」と答えた。その隆夫の答えに対して、先生は一瞬沈黙しただけで、そのあとは何もなかったように別の子を指名した。その子が『ありがとう』と言いました」と答えると、先生は「はい、そうですね。みなさん、拍手」と笑顔で言い、結局、隆夫の答えは先生から完全に無視された形になった。

隆夫のイメージでは、吹雪で風が強いので、きつく縛ってもらわなければ、せっかくかぶせても笠が飛んでしまうと考えていた。しかし、若い先生の頭の中には、「ありがとう」という答えしかなかったのだ。

数日後の図工の時間、子どもたちは自分の好きな絵を描くことになった。隆夫は空を飛んでいるカラスを描いた。先生は、子どもたちの絵を一人ひとり見ながら巡回し、隆夫のそばに来た。「隆夫くん、この赤い鳥は何の鳥？」と質問した。「カラスだよ、先生」と隆夫は答えたのだが、先生はクレヨンを持ち、「隆夫くん、カラスは黒いのよ」と言いながらカラスを黒く塗りつぶした。

隆夫は絵を家に持ち帰り、母親に見せると同時に涙をあふれさせた。もし先生が「隆夫くん、どうしてカラスが赤いのかな？」と質問すれば、「夕方、空を見ていたら、赤いカラスが飛んでいたよ」と答えていただろう。

隆夫は、夕日で赤く映ったカラスを描いていたのだ。

大人の気づきの大事さ、反省、山ほどある。

Only one (オンリーワン) — 子どもの個性を伸ばしてあげてください。



「家庭教育支援事業」を実施しています

秋田大学との連携事業です

生涯学習課では、今年度から、関係課、保育所や学校等と連携しながら「家庭教育支援事業」を実施しています。「子どもの生きる力を育む」をテーマとして、保護者の皆さんを対象に「家庭教育関係講座」を行っているほか、次代の親となる中学生・高校生の社会参加活動「みんなでAction!」を推進しています。

家庭教育関係講座

学びで得たさまざまな気づきを 日常の子育てに活かしてほしい

苦手な食べ物でも楽しい食事の記憶を広げていくことで、自然に食べることができるようになります。「栄養があるから食べなさい」ではなく、発達を理解したことばかけで、楽しい食卓を心がけてください。

秋田大学教授 長沼 誠子 氏（「おいしさのひみつ」6/30 第四小）

参加者の声 食べて「おいしい」と感じることで、そのまま心の栄養にもつながっていくことに改めて気づかされました。家族そろって食卓を囲んで食事をすることの大切さを感じました。



自分で食べるものは、自分で選ぶことができる力、どこで、だれが、どうやって作っているか想像できる力をつけてほしいです。

あきた企業活性化センター 泉 牧子 氏（「食べものを選ぶチカラ」7/1 常盤小）

参加者の声 手間ひまのかからない便利な物ばかりがあふれていますが、子どもたちには、どのようにして野菜ができるのか、魚はどうやってさばくのか、できるだけ一緒に料理をするのも、見せるのも大切なことだと思いました。

社会参加活動推進事業「みんなでAction!」

子どもたちの自己肯定感、自主性を育みたい

交通安全呼びかけ運動



能代市連合婦人会ニツ井支部の活動にニツ井中学生が参加

参加者の声（ニツ井中学生）

町の人達はとてもやさしく、チラシを3枚ももらってくれる人もいました。自転車をとめてまでもらってくれる人もいたので、うれしかったです。また町のことに参加したいです。

子育て支援活動ぬくもり



北地区民生児童委員協議会の活動に北高生が参加

参加者の声（北高生）

子どもたちの前で本を読むのは初めてで緊張しましたが、とてもいい体験になりました。子どもとふれ合うだけでなく、地域の方々ともふれ合うことができ、よかったです。

☆「生きる力」を育むうえで心がけたいこと☆

○家族（親）の愛情・温かな家庭

生涯にわたって心のよりどころとなります

○人との豊かな関わりや五感をつかった多様な体験

社会性や知識・技能、からだの基礎を培います

○子どもの自ら育つ力や主体性を尊重した関わり

社会的自立をうながします



乳児は 肌を はなすな

幼児は 手を はなすな

少年は 目を はなすな

青年は 心を はなすな

☆通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、生涯学習課までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部 生涯学習課 〒018-3192 能代市ニツ井町字上台 1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:syougai@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2010年2月

発行：能代市教育委員会生涯学習課

自己評価の高い子どもにー

今年度、保育所や学校等と連携して実施した家庭教育関係講座では、講師の方々から大変貴重なお話をうかがうことができました。

子どもの「今の姿」を認め、小さなことでもきちっとほめて自信を持たせる。その積み重ねが大事であること。子ども自身にやらせる、まかせる。親にはそれを見守る忍耐が必要であるなどー。

子どもが自分に自信をもち、意欲をもって未来に向かっていけるようにするために、親は、大人は、どのような関わり方をすればいいのでしょうか。

来年度もさまざまなテーマで家庭教育関係講座を実施します。どうぞご参加ください。

「泳ぎたい 泳ぎたい 泳ぎたい」

～子どもの心をわかってあげよう～

能代市社会教育指導員 高畑 勉

崇徳小1年生の崇君は、「けのび」ができるようになって水泳が大好きになりました。3時間目の体育の時間になると、朝の着替えはノロノロなのに、サッと水泳パンツをはいて、プールの入口で待っているのです。

すると、朝から心配だった空からポツリとききました。「すぐ晴れる」と気にしないで待っていると、徳子さんが「泳ぎはお休み」と知らせにきました。崇君の目からは雨粒より大きい涙が2つ3つこぼれました。



4時間目の授業中には、窓からプールの方ばかり見ているのです。多宝先生が「しっかり勉強しないとみんなに遅れてしまいますよ」と注意しても教科書に目を向けません。給食の時間には下を向いたまま大好きなカレーを一口も食べようとしません。「食べないとお腹すくよ」と言う多宝先生の言葉にも「…」です。

多宝先生は、何ともできない自分が悲しくなりましたが、ちょうど給食の様子を見にきた保健室の松山先生に話を話しました。松山先生はちょっと考えてから、崇君のそばで低い声で「ムニャムニャ」とお話ししました。すると「はい!」と元気な声を出した崇君はカレーにかぶりつきました。

松山先生は、いったい何と言って崇君を元気にすることができたのでしょうか。徳子さんや多宝先生も「ヒミツの言葉」が知りたくてたまりませんでした。

松山先生は、「明日、雨が降っても先生と一緒に泳ぎましょうね」と言ったのでした。「泳ぎたい!」と叫んでいる崇君の心に応えているのです。勉強だの給食だのと多宝先生が自分の方に気を向かせようとしても、水泳と関係ない言葉なので、ますます崇君の心をこじらせるだけです。心に応える声が必要なのです。そうでないと、自分たちの方に心を向けようとしても「ゴンボホリ」の状態は、一步も動きません。

子どもの心に希望がわくように働きかけると、子どもは自分らしさを取り戻します。

(崇徳小学校での講話より)

能代市家庭教育支援事業

秋田大学との連携事業です

生涯学習課では、「子どもの生きる力を育む」をテーマに、保護者や地域の方々が、子どもの自立に向けた子育ての視点や具体的な関わり方について学べる機会として、家庭教育関係講座を実施しています。

家庭教育関係講座

学びで得たさまざまな気づきを日常の子育てに活かしてほしい

6歳から10歳くらいまでを「中間反抗期・口答え期」という。大人がオッと思うような悪いことばをつかう。悪いことばをつかえないと友達関係をしっかり構築できない。ダメなことばづかいはダメと教えないといけないが、裏から考えると、しっかりした発達の中に入っていたといえる。

児童文化研究家 金田昭三氏（『小学校就学前後の子育て』1/22 向能代小）



参加者の声 兄弟そろって今まさにギャングエイジ。家族の会話でも「どこから覚えてきた言葉なんだろう」と出てきます。でも、それが健全な成長とわかり、ホッとしました。



小学校、中学校への入学や就職など人生には節目がある。人生の節々には、ぜひ家族皆で祝ってあげてほしい。今、子どもさんたちは入学を心待ちにしている。その中で「～できないと学校に入れないよ」と否定的にではなく、「～できるようになるといいね」と言ってあげるように心がけましょう。

北教育事務所 社会教育アドバイザー 小林礼子氏（『もうすぐ1年生』1/28 浅内小）

参加者の声 子どもが入学を楽しみにしている半面、親の方は不安だったり「〇〇ができれば…」という気負いが強かった。講話をきいて、もっと広い心でゆったりと子どもを見つめてあげようという気持ちになってきた。

ある本に、なぜ日本のお母さんたちは子育てに「面倒くさい」という言葉をつかうのだろうとあった。心がすさんでくるとご飯の支度が適当になる。子どもは心がギスギスすると言葉が乱暴になる。命を生み出すのも、一生その子についてまわる人格をつくりあげるのも父、母であり、家庭である。

能代ミュージカルキッズ代表 今立善子氏（『明るく生きること』2/2 第五小）

参加者の声 じんわりと涙が出てきました。どの家庭にも色々な事情はありますが、そうなったからといって子どもにただつらい思いをさせるのではなく、少し笑い合うだけで、乗り越えていけるものだと感じました。



☆ 子どもの「生きる力」を育むうえで心がけたいこと ☆

〇子ども時代の思い出を子育てに役立てる

うれしかったこと、ワクワクしたこと、いやだったこと、くやしかったことなど、子ども時代のいろんな思い出や感覚が、心の奥底に残っていませんか。ときにはそれを掘り起こして、子どもとのよりよい関わりに役立ててみましょう。



乳児は 肌を はなすな

幼児は 手を はなすな

少年は 目を はなすな

青年は 心を はなすな

☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、生涯学習課までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部 生涯学習課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台 1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:syougai@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2010年7月

発行：能代市教育委員会生涯学習課

子どもの力を信じる

子どもたちが心豊かに育つように、そして、将来、社会でたくましく生きていく力を身につけていくことを願いながら、今年度も家庭教育支援事業を実施していきます。

子どもの自ら育つ力を信じ、“今の姿”を認める。それが子どもの「生きる力」を育むうえでの出発点となります。子どもと「正対する」ということ、「壁」ということについて考えたことがありますか。

子どもの「壁」と不登校

能代市社会教育指導員 高畑 勉

A君は小学5年生です。不登校児童です。

彼は、小学校へ入学する前の年に、両親の離婚のため、母の実家へ引っ越してきました。祖父母は、一人娘が帰って来たので、後継ぎまでできたと大喜びでした。母は、子どものことは祖父母に任せてカラオケなどを楽しむ日々が続きました。

A君は、良いことと悪いことをきちんと教えてくれた父を慕っていました。母は、こうしたA君の気持ちを考えていませんでした。A君は、すぐ友達もできず、寂しさを紛らわすために祖母に金品をねだり始めたのです。

A君が4年のときの春に、祖父に突然死が訪れました。しかし、葬儀が終わってもA君は学校へ行こうとしませんでした。「○○を買ってくれないと学校へは行かない」と言い出しました。すぐ買い与えたのがいけなかったのです。要求はますますエスカレートします。祖母は、オロオロし、母の言うことは無視され、A君は暴力をふるうようになりました。



担任のB先生は、何度となく家庭訪問をしました。先生は、「学校へ出てこない勉強が遅れる」と母や祖母に話しました。「友達が心配している」とも話しました。効果はありませんでした。先生が来たとき、A君は「聞き耳を立てていた」のです。先生と家族とのやりとり、そして母と祖母の会話も全部聞いていたのです。これまでA君の心を動かすような会話はあったのでしょうか。

A君は、学校へ行きたいのです。しかし、何でも言うことを聞く家族との関係を何とかしないうちは、学校へ行く気にならないのです。「子どもは学校へ行って勉強するもんだ。友だちとケンカしたり仲良くしたりして遊ぶもんだ。」と正対してほしかったのです。物品を与えたり、近所の目を気にして学校へ行かせようとしている家族は、本当に心配したり、愛情を持って接していると言えるでしょうか。

校長先生は、A君には、「やめなさい！こうしなさい！」とビシッと言う「壁（亡くなった祖父）」が必要だと察知しました。自我に目覚めた子どもは、自分の力を確かめようと周りの壁を攻撃し、跳ね返されながら育っていくのです。校長先生は壁の役目を果たしました。子どもは一人ではいかに無力かということをしきりに教えました。

母や祖母は、離婚した事情を説明し、「慕っていた父親と引き離してすまなかった」「欲しいと言えば何でも買ってやり幼児扱いした」ことなどを心から謝りました。また、大人になったらこの家を頼むとも伝えました。

二学期になりました。A君は、少し恥ずかしそうに廊下を歩き、校長室の前に来ると、チラッと目を向けましたがそのまま素通りしました。

家庭教育関係講座

いろいろな人たちの考えを学びながら

自分に合った子育てスタイルを見つけていってほしい—

「明るく生きること」

能代ミュージカルキッズ代表 今立 善子 氏

ある3人の子どもをもつお母さんはパート3つかけもちで働く。それでも朝ご飯だけはみんなそろって食べたい。必ず「いってらっしゃい」と言ってお学校に送り出したいとがんばった。親ががんばれば、子どもは「がんばる」ということがどういうことか、姿を見て分かるようになる。

(6/29 淳城西小にて)



参加者の声

「なんで私ばかりこんなに忙しいのかしら」とよく思っていたので、今後はプラス思考、そして、感謝を忘れずに、子どもたちと接したいと思いました。

「子育てに思うこと」

沢田 欣之 氏

自分で考え選択することができない子どもが多い。いつもお父さん、お母さんに守られていて、楽なことや楽しいことばかりやっていると、何かあったときすぐパタッと折れてしまう。厳しい社会をたくましく生きていけるように、心を鍛える関わりをしてほしい。

(7/1 常盤小にて)



参加者の声

最後の最後まで、大人も幼い子どもたちをも引きつける内容で、とても楽しく聞かせていただきました。ハッとさせられる言葉に多く出会えました。

社会参加活動推進事業「みんなでAction!」

自立をうながす関わりを通して

中高生の社会性や親準備性を育んでいきたい—

「あいさつ運動」



榊地区民生児童委員協議会の活動に南中学生が参加

参加者の声 (南中学生)

今回、地域の人たちとあいさつ運動を行って、とてもうれしく思いました。笑顔でさわやかにあいさつしていたので、僕もこれから気をつけたいです。また機会があったら参加したいです。

「非行防止街頭キャンペーン」



青少年育成能代市民会議の活動に高校生が参加

参加者の声 (工業高生徒)

〇ひとつの事を防止するのに、みんなで取り組むのはいいことだと感じた。また機会があったら参加したい。
〇ティッシュ配りで、拒否されるのがショックでした。慣れない仕事で大変でした。

☆ 子どもの「生きる力」を育むうえで心がけたいこと ☆

〇わが家の子育てルールをつくる

たとえば—

- ・友達や先生の悪口を子どもの前で言わない
- ・夫婦一緒に叱らない(逃げ場をつくる)
- ・きょうだいや友達と比べるようなことは言わない
- ・ひとりで食事をさせない

など



乳児は 肌を はなすな

幼児は 手を はなすな

少年は 目を はなすな

青年は 心を はなすな

☆通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、生涯学習課までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部 生涯学習課

〒018-3192 能代市二ツ井町字上台 1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:syougai@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2010年10月

発行：能代市教育委員会生涯学習課

“痛み”を感じられる心

「お笑い番組」の影響もあるのでしょうか。相手やその家族を深いところで傷つけていることに気づけない子どもが増えているように感じます。「大切なものを失った人の悲しみ」や「傷ついた人の痛み」を自分のことのように感じ、それを想像することができる心を育てることは、躰の中でもとても重要なことだと思うのです。

生まれつきの悩み

能代市社会教育指導員 高畑 勉

『さっちゃんのまほうのて』（偕成社）という本の中に出てくるさっちゃんの右手には、生まれつき5本の指がありません。ある日、このことをお母さんに聞くと、お母さんはさっちゃんの手をやさしくつつみこんで、こう答えました。

「さちこのてはね、しょうがくせいに なっても いまのままよ。ずっと、いまのままよ。でもね、さっちゃん。これが さちこの だいじな だいじなて なんだから。おかあさんのだいすきな さちこの かわいい かわいいて なんだから…。」



お父さんは、こうさっちゃんに言いました。

「こうして さちことてを つないで あるいていると、とっても ふしぎなちからが さちこのてから やってきて、おとうさんのからだ いっぱいになるんだ。さちこのては まるで まほうのてだね。」

さっちゃんは、そんなあたたかい二人の言葉を聞いて、今までさっちゃんをいじめていたお友達にも、自分の手を「まほうのて」だとじまんするようになりました。

その人が生まれたときに、すでに体に備わっているもので、どんなに努力してもどうにもならないことも多く、そのことで悩んだり苦しんだりする人も少なくありません。次のお話も読んでよく考えてください。

ある女の子のほっぺたには、生まれつき赤いあざがありました。なぜできてしまったのか原因が分からないのですが、両親は自分たちのせいだと思いつつ同時に、将来、娘がこのあざのことで思い悩むのではないかと心配しました。でも、ある人がその女の子に言ってくれた言葉で、今までの悩みがいっぺんに吹き飛んだそうです。それは、「お母さんとはぐれても迷子にならないようにほっぺたにしるしがついているんだね」という言葉でした。

その両親は、いままであざのことをにくいとまで思い、消すことばかり考えていたのですが、その言葉を聞いて、あざのことは、「世界でたった一つしかない家族の宝物」と思うようになりました。そして、あざも隠さないようになったそうです。

あなたの体は、両親からもらった大切な体です。特にお母さんはあなたがお腹の中にいるときから、「元気で生まれますように」といつも願っていました。待ち望んで生まれてきた子は、すべてがかわいいのです。生まれつきのことでお友達へ嫌がらせをすることは、お友達を傷つけると同時に、その両親の心も傷つけることを覚えておいてください。

それに、日本中、いや世界中に「完全無欠な人」なんていません。

家庭教育関係講座

「発達過程における親子関係～青年期を楽しむために～」

秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻 准教授 佐々木 久長 氏



「甘やかし」は、親や大人が子どもに甘えていることであり、子どもをダメにする一番確実な方法である。欲しいものがすぐ現実化する体験は、我慢する力を奪う。親子関係で苦しむ家庭をみると、親が子どもの欲求に応えられなくなった時から問題が発生していることが多い。

(9/5 能代市私立幼稚園 PTA 連合会事業にて)

参加者の声

幼児期からの親子関係がしっかり結ばれていれば、成長していく上で大丈夫だということが、今後の子育てをしていくうえで、とても参考になりました。

「発達心理学の視点からみる子どもの世界」

秋田大学教育文化学部発達教育講座 准教授 山名 裕子 氏



乳幼児期に子どもにいろんなことをさせればできることは確かである。しかし、半面、本来経験すべきことを奪ってはいないか、と少し考えてほしい。子育てをあまり急がず、大人の価値観とは異なる「子どもの世界」を見守る配慮が必要である。

(9/10 母子保健に携わる関係者研修会にて)

参加者の声

子どもたちへの関わりで、答えを出して先回りすることが、かえって子どもの育つ力を奪い取ってしまう場合があることなど、たくさん参考になりました。

社会参加活動推進事業「みんなでAction!」

～ 赤ちゃんとお母さんたちの「交流ひろば」に 高校生が参加 ～



▲赤ちゃんを抱っこする高校生 (8/3 エナジウムパークにて)

参加者の声 (北高生徒)

- まだ話すことができない赤ちゃんたちと触れ合ってみて、やっぱりかわいいなと思いました。ママさんたちも同じような悩みを抱えていて、お互いに話し合ったりしていたので、大変そうだなと感じました。
- 子どもたちと遊んでいて、私もほしいなあという気持ちが高まりました。親になったら私もこのような活動に積極的に参加して、楽しさや悩みを共有したいです。

☆ 子どもの「生きる力」を育むうえで心がけたいこと ☆

○子どもの発達について理解する

子どもには発達段階によって、さまざまな特徴があります。子どもの心とからだについて「知る」ことで、子育てにおける不安が解消されたり、関わり方やことばのかけ方について、ヒントを得ることができます。



乳児は 肌を はなすな
幼児は 手を はなすな
少年は 目を はなすな
青年は 心を はなすな

☆通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、生涯学習課までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部 生涯学習課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台 1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:syougai@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2011 年 3 月

発行：能代市教育委員会生涯学習課

改善しようとする姿勢

子育てに「完璧」はありません。子どもを育てるということは、とても大変なことです。悩み、迷うことがたくさんあります。大切なのは、「常に改善していこうとする姿勢」ではないでしょうか。最初から「私はこれでやります」という自分勝手な子育てではなく、いろいろな人たちの考えを知り、新たな視点を得たり、「自分はこれでいいんだ」と自信を積み重ねていくことが、「親」になっていくうえでとても大切なことだと考えます。

一度はじっくり子どもと話し合いたい「お金」

能代市社会教育指導員 高畑 勉

「おこづかいはどのくらいが適当か」「金額を上げるべきか」「子どもが家のお金を持ち出した」など、子育て中の「お金の悩み」は多い。お金には、「子どもの頃」「親として」悩み、悩まされた。でも、教師として、子どもたちからの集金をするとき、小さな肩に背負いきれない家庭の事情があることを知ったりすると、「お金なんかなければいいのに」と、お金を恨んだこともあった。そんなときに、M先輩が語ってくれた、あるお母さんの子どもを育てる姿勢に胸を熱くしたことを覚えている。

A子は2年生。ある日、お母さんの財布から200円を持ち出して、お菓子を買って食べた。お母さんはそれに気づき、A子に問いただした。A子は、お金を持ち出したこと、お菓子を買って食べたことを話した。お母さんはA子を座らせて、家のお金について話した。「これは、お父さんが働いて会社からもらったお給料、〇〇〇〇〇円」「これはお米代、〇〇〇〇円」「これはおかず代、〇〇〇〇円」「これは電気代、〇〇〇〇円」「これは…」と、すべて分かるように説明した。最後に「うちには、余分なお金も要らないお金もないのよ」と言った。A子の心に響かないはずはない。涙を流しながら「ごめんなさい」と消え入るような声を振り絞った。



お母さんの偉いところは、M先輩にこのことを包み隠さず話し、教えを乞うたことである。母子のやりとりと子育ての姿勢に敬服した。「お金をとったらだめ」「お金は大切に」とはだれでも言う。でも、子どもにしっかり伝わっているかは疑問である。「言う」とことと「分からせる」とことは違う。親には子どもが納得するまで説明する責務がある。

B子は、お母さんの財布から500円を持ち出し、友だちにお菓子を買ってふるまった。お母さんは「どうしてでしょうか。おこづかいは100円ずつ毎日あげているのに」と言った。M先輩が「100円ですか」と言うと、「多いですか」と聞いてきた。

こづかいの額ではなく、B子に必要なことだったかどうかであるとM先輩が教えてくれた。お金は目的があって使うものである。毎日100円を渡され、「お金を使う」ことが目的になってしまった。

もっと判断力がついて計算もでき、お金の大切さを学んだ後に初めて、親は、こづかいが「自分の子どもに必要なか」「与える時期が来たか」と判断するべきではないでしょうか。

家庭教育関係講座

『たくましく心豊かな子どもを育てるために』

講師：日本笑い学会秋田県幹事 人星亭 喜楽駄朗 師匠

たくましく心豊かな子どもを育てるために
日本笑い学会秋田県幹事 人星亭 喜楽駄朗 師匠



子どもには失敗や恥をかく経験をさせること。ちり紙、ハンカチなど全部お母さんが準備していませんか。忘れたとき子どもは「お母さんが忘れたの」と言う。そうではなく、みんなの前で先生に注意されることで、次はちゃんとやろうと思うようになる。失敗しないようにと何でも大人が先回りしてやるから、何かちょっとしたことで失敗したとき、すぐに折れてしまう。(2/8 第五小にて)

＜保護者の声＞

失敗してもあきらめない力、何度もチャレンジできる力、自分で考えて行動できる力、大切だと思います。子供の力を引き出せるよう、大人のかかわり方がとても重要であることを感じました。手を出し過ぎないように、見守り、時には、一緒に考えたりしていきたいと思いました。

社会参加活動「みんなで Action！」



子育て支援センターの「0歳児ひろば」「ひよこひろば」に参加し、赤ちゃんともふれ合う高校生たち



＜参加した高校生の声＞

- 今までふれ合うことがなかった0歳児の赤ちゃんたちとふれ合うことの楽しさを知ることができました。
- 赤ちゃんにふれて、自分たちが何かをすると喜んでくれたり、とてもうれしかったです。6ヵ月で11kgの赤ちゃんもいて、すごく大きいなと思いました。抱き方とかほめられて、「慣れてるね」と言われ、うれしかったです。
- すごい楽しかったです。お母さんたちからいろんな話を聞いて、いい経験になりました。親同士の話もできて、いい機会だと思いました。

家庭教育に関する本の紹介（市立図書館所蔵）



『親がしてやれることなんて

ほんの少し』

山本ふみこ・著

小学生、高校生、大学生の3人の子どものお母さんが語る、子育てのなかの、ちょっとした大事。疲れた心にも効くエッセイ。

『上の子下の子、

きょうだい子育て』

プチタンファン編集部・著

赤ちゃんがえり、やきもち、平等にかわいがれないなどのきょうだい子育ての悩みに答える。先輩ママの生活の知恵や、きょうだいげんか Q&A も収載。

『子育てマンガ

あたし天使あなた悪魔』

田島みるく・著

いるとうるさい、いないと寂しい。まったく子どもっていうのは…。20万人を超すママとパパが読んだ子育て漫画。長男の誕生から2人目出産までのすべてを描く。

☆ 子どもの「生きる力」を育むうえで心がけたいこと ☆

○自己肯定感を育む

子どもは自分の存在や自分らしさを認められることで、心の安定が保たれます。「認める、ほめる」を基本とする子育てが、子どもの生きる力を育みます。



乳児は 肌を はなすな

幼児は 手を はなすな

少年は 目を はなすな

青年は 心を はなすな

☆通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、生涯学習課までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部 生涯学習課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台 1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:syougai@city.noshiro.akita.jp